



岐阜協立大学
GIFU KYORITSU UNIVERSITY

内部質保証の取組み ～教学面を中心に～

(公財)日本高等教育評価機構
令和3年度 評価充実協議会
岐阜協立大学
学長 竹内治彦

岐阜協立大学

- ▶ 所在地：岐阜県大垣市
- ▶ 1967年、地元自治体、経済界、教育界の要望と支援のもとに設立
- ▶ 2017年4月には、学校法人岐阜経済大学（旧法人）と学校法人大垣女子短期大学（旧法人）とが法人合併し、新たに「学校法人大垣総合学園」を設置。
大学と短大の教育資産を融合し、看護学部看護学科を開設
 - 経済学部（経済学科、公共政策学科）
 - 経営学部（情報メディア学科、スポーツ経営学科）
 - 看護学部（看護学科）
 - 大学院経営学研究科
- ▶ 2019年4月 看護学部設置にあわせ、大学名称を「岐阜協立大学」に名称変更
- ▶ (財)日本高等教育評価機構による認証評価受審は2006年、2013年に続いて3回目

建学の精神を確立している

今回の評価:建学の精神・教育目的を、大学ホームページ及び大学案内を通し、視覚的に訴える図も用いて、ステークホルダー全般へ理解しやすく公表している点は評価できる。

経緯:開学50周年事業の中で、大学の設立趣意書を読み直し、その中から重要な言葉を選び出し、そこから建学の精神等を再定義しました。

建学の精神 創造発見
知才涵養
資質発揚
地域貢献

創造発見
知才涵養
資質発揚
地域貢献

社会的使命

建学の精神の語句の内容をさらに簡潔にまとめる場合、4つの建学の精神の頭文字「創知資地」を読み下せば、「知を創り、地に資する」となります。

「創知資地」⇒ 知を創り、地に資する

卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針（三つの方針）を一体的に策定し、公表している

今回の評価：「基準3. 教育課程」について

教育目的を踏まえて、各学部・学科でディプロマ・ポリシーを策定し、大学ホームページ等を通じて学内外に周知している。単位認定に当たっては、認定率をもとに教務委員会が客観性のある評価確保に努めている。

カリキュラム・ポリシーも教育目的・教育理念を踏まえて体系化されている。シラバスの内容を点検する制度を導入し、記載方法の統一に努めている。アクティブ・ラーニングについては、重要性を全教員が認識した上、少人数教育の徹底を軸に、全学的に推進している。

「基準 3. 教育課程」について

- ▶ 「授業アンケート」「学修行動調査」「学生生活アンケート」をもとに、ディプロマ・ポリシーに沿った学修成果の点検・評価を積極的に実施している。
- ▶ 「授業アンケート」については、ICT(情報通信技術)の利用で回収率の向上を図っているほか、取りまとめた内容を教授会で確認・情報共有し、個々の教員にもフィードバックして授業改善に向けた取組みに生かしている。

2020年度後期 授業アンケート 記述結果

番号	部門	1	2	3	4	5	6	7	計
	所属学科	21	7	10	22	0			60
	1.経営 2.公共政策 3.7分野経営 4.情報イテ 5.看護	35.0%	11.7%	16.7%	36.7%	0.0%			100.0%
	学年	39	3	18	0	0			60
	1.1年次 2.2年次 3.3年次 4.4年次 5.5年次以上	65.0%	5.0%	30.0%	0.0%	0.0%			100.0%
1	この科目で作った授業料巻を返してください(複数回答可)	55	1	18	4	46	0	50	174
	①Teamsだけの授業より対面での授業の方が授業料巻を返すのが楽(複数回答可) ②Teamsによる課題やテストによる課題やそのほかの科目の課題への影響	31.6%	0.6%	10.3%	2.3%	26.4%	0.0%	28.7%	100.0%
2	この科目のオンライン授業を何で受講していますか(複数回答可)	14	41	23					78
	①パソコン②iPad等のタブレット③スマートフォン	17.9%	52.6%	29.5%					100.0%
3	通常授業で講義システムとしての不満を感じたことがあれば、その内容を説明してください(複数回答可)	10	10	5	1	4	43		73
	①音声の不調(音の伝わり、遅延)②画面の不調(音の伝わり、遅延)③音声・画面の不調(音の伝わり、遅延) ④Teamsによる課題やテストによる課題やそのほかの科目の課題への影響	13.7%	13.7%	6.8%	1.4%	5.5%	58.9%		100.0%
4	授業の書き方またはパワーポイント、講義資料は分かりやすい読みやすいですか	2	5	10	30	12	1		60
	①とても分かりにくい②やや分かりにくい③どちらでもない④やや分かりやすい⑤とても分かりやすい(複数回答可)	3.3%	8.3%	16.7%	50.0%	20.0%	1.7%		100.0%
5	この授業の教員の話し方・説明は分かりやすいですか	2	3	17	25	13			60
	①とても分かりにくい②やや分かりにくい③どちらでもない④やや分かりやすい⑤とても分かりやすい	3.3%	5.0%	28.3%	41.7%	21.7%			100.0%
6	この授業ほどの復習は必要ですか	1	4	20	29	6			60
	①全く必要でない②あまり必要でない③どちらでもない④必要⑤必要以上(複数回答可)	1.7%	6.7%	33.3%	48.3%	10.0%			100.0%
7	授業に集中するための環境(机、椅子、照明、音、温度等)は保たれていますか	2	1	7	29	21			60
	①とても不満②やや不満③どちらでもない④やや満足⑤とても満足	3.3%	1.7%	11.7%	48.3%	35.0%			100.0%
8	この授業に意欲的に参加していますか	0	2	9	31	18			60
	①全く意欲的でない②あまり意欲的でない③どちらでもない④意欲的⑤とても意欲的である	0.0%	3.3%	15.0%	51.7%	30.0%			100.0%
9	この授業にこれまで出席して、どのように感じていますか	1	5	15	31	8			60
	①とても不満②やや不満③どちらでもない④やや満足⑤とても満足	1.7%	8.3%	25.0%	51.7%	13.3%			100.0%
10	この授業の予習・復習を毎回平均してどの程度行っていますか	18	18	19	5				60
	①ほとんどしない②30分未満③30分～1時間未満④1時間以上	30.0%	30.0%	31.7%	8.3%				100.0%
11	半全が理解できているかの確認をしながら授業が進められていますか(複数回答可)	5	2	32	22	9			70
	①確認されていない②確認して答えさせるなど問答があった③小テスト・黒板等の活用があった④確認/確認の授業の振り返りがあった⑤その他の方法で確認があった	7.1%	2.9%	45.7%	31.4%	12.9%			100.0%

設問⑩この授業で大変良かったと思われる点を具体的に記載してください

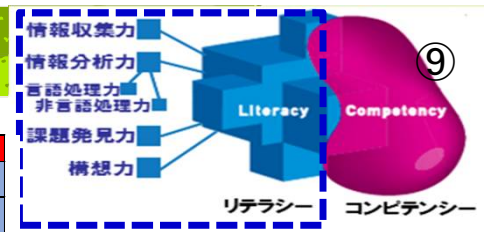
設問⑪この授業で工夫・改善して欲しいと思う点を具体的に記載してください

講義名	社会学
教員名	竹内 治彦
記述内容	<p>⑩対面時は、大人数で講義を受けたが比較的静かだった。 先生の説明が分かりやすかった。</p> <p>⑪問題など例文を解く前に一度やりながら教えてくれたのと、とてもわかりやすい授業だった。</p> <p>⑫わかりやすいようにグラフなどを使って授業していて良かったと思う。</p> <p>⑬計算問題をするときにわかりやすい説明が良かった。</p> <p>⑭とても例えが分かり易かったので、理解しやすかった。</p> <p>⑮毎回表示されるパワーポイントの資料がとても分かりやすく、ためになった。</p> <p>⑯資料が分かりやすくて良かった。</p> <p>⑰チームズに、授業資料などが貼ってあったのがよかった。</p> <p>⑱説明がわかりやすくされていた。</p> <p>⑲資料に対して理解を補う形なので講義内で理解しやすかった。</p> <p>⑳計算問題など分かりにくいものは、説明に時間をかけたり何度も繰り返し行ったりと理解できるようにと工夫されていたのが良かった。そのおかげで理解することができた。</p> <p>㉑一つ一つの説明がわかりやすい点</p> <p>㉒前の授業の復習をしっかりとくださって、理解しやすかった点。 また、授業資料がとてもわかりやすかった。</p> <p>㉓わからない問題があったら解き方を丁寧に教えてくれたところがよかった点です。</p> <p>㉔計算問題などわかりやすく説明してもらい、理解できたし、オンライン授業では録画をアップしてもらえて、学習しやすかった。</p> <p>㉕かなり生徒に対し、本当に理解できているか気を使っているため安心できた。</p> <p>㉖説明が簡潔でとてもわかりやすかった。</p> <p>㉗この授業で習得して欲しいことが明快であったこと。</p> <p>㉘一回オンライン授業に不具合で参加できなかったこと。</p> <p>㉙ジニ係数の計算がわかりにくかった</p> <p>㉚対面の時課題が毎回出てきつい。遠隔になってからもオンライン授業があるのに課題が出て負担が大きいし、時間がかかるようなものばかり。</p> <p>㉛会議に入れないことが何回もあった。</p> <p>㉜授業の録画を残して欲しい</p> <p>㉝授業の最初に前回の復習をしたりしてほしい</p>

学修成果(Student Learning Outcomes)を定めている
↓
PROGによる学修成果の把握の試み 1年目の結果

- 「PROG」とは、社会で求められている能力（シエリックスル）を“リテラシー”と“コンピテンシー”の二側面で客観的に測定するアセスメントテストです。
- 各大学では、教育改善に向けた学修成果の測定や、学生の成長や主体的な学びを育むために活用され、2012年4月リリース以降、年間300大学20万名（累計120万名以上）の学生が受験しています。





PROGテスト能力別対応表

リテラシー						コンピテンシー								
情報収集力	情報分析力	課題発見力	構想力	言語処理力	非言語処理力	対人基礎力			対自己基礎力			対課題基礎力		
						親和力	協働力	統率力	感情制御力	自信創出力	行動持続力	課題発見力	計画立案力	実践力
適切な手段を用いて収集・調査、整理する力	収集した情報を分析し、現状を正確に把握する力	現象・事実に隠れている問題点・要因を発見し、課題を設定する力	さまざまな条件・制約を考慮し、解決策を選択し構想する力	文章から読み取ること、言葉で伝える力	グラフや表の読み取りや、統計的な処理をする力	人に興味を持ち共感信頼する力	役割を理解し相互に助け合う力	意見を主張しチームを高める力	自分の感情を適切に制御する力	自分を知り自信を引き出す力	主体的に取り組み完遂する力	情報を集め本質に迫る力	目標を設定し計画を立てる力	考えを行動に移し振り返る力

ディプロマポリシー

※当てはまることが想定される項目に○

1	人文科学、社会科学、自然科学、 情報リテラシー 、および論理的な文章表現力を身に付けている。	○	○	○	○	○	○								
2	日本人同士、外国人とも 共感しあうコミュニケーション能力 を持っている。							○	○	○					
3	経営学とスポーツ科学の専門知識を体系的に修得している。														
4	現実の経営問題を理解する方法を修得し、経営学の専門知識を学校やスポーツ産業における経営に実践的に応用できる。														
5	地域におけるスポーツ振興の 課題を見つけ、その解決のために貢献できる。			○	○								○	○	○



考察 スポーツ経学科1年生の特徴

①全国平均との比較から(1年生)



DPと関連すると思われる能力



基準値より高いDPと関連する能力



基準値より低いDPと関連する能力



DL資料では削除させていただきます。

- 学生一人ひとりにPROGの結果報告書を返却し、**学生は自らの強み・弱みを理解**します。
- 更に**解説セミナー**を実施し、自らの強みを伸ばす（又は弱みを克服する）ための**目標設定・行動計画作成**を行ないました。

①PROGテスト結果報告書の返却 ②自己の強み・弱み理解 ③今後の成長に向けた活用

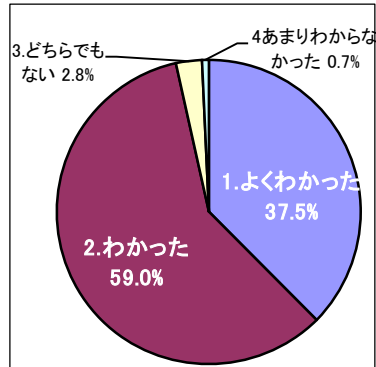
The diagram illustrates the feedback process for PROG results. It starts with individual reports for 'Literacy' and 'Competency' (with a '全体傾向' or overall trend section). These reports are then consolidated into a central 'PROGの強化書' (PROG Reinforcement Book). From this book, two usage patterns are shown:

- パターン① (Pattern 1):** Targeted at 1st and 2nd year students (1・2年生向け), it focuses on determining the 'strength' they want to extend and creating an 'action plan'.
- パターン② (Pattern 2):** Targeted at 3rd and 4th year students (3・4年生向け), it focuses on utilizing their 'strengths' to create their own 'self-PR'.

Supporting documents include '個人結果報告書' (Individual Results Report), 'リテラシー詳細報告' (Literacy Detailed Report), 'コンピテンシー詳細報告' (Competency Detailed Report), and '自己PR作成ワークシート' (Self-PR Creation Worksheet).

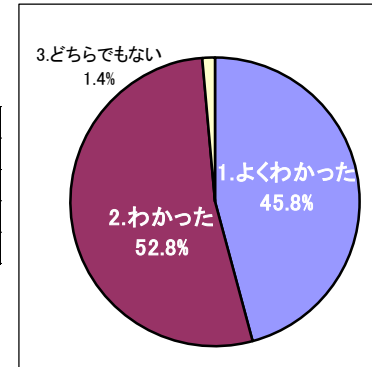
Q.ご自分の強みはわかりましたか？

1.よくわかった	54
2.わかった	85
3.どちらでもない	4
4あまりわからなかった	1
5.わからなかった	0



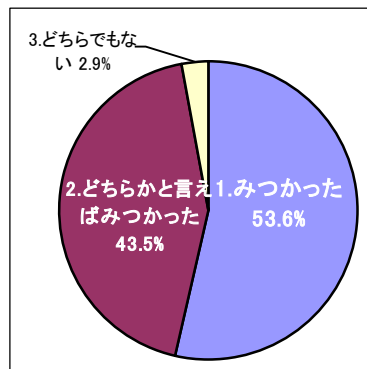
Q.ご自分の課題はわかりましたか？

1.よくわかった	66
2.わかった	76
3.どちらでもない	2
4あまりわからなかった	0
5.わからなかった	0



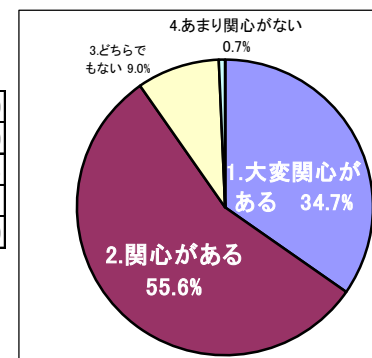
Q.本日の解説会を通じて、これからやること／何をやるべきかはみわかりましたか？

1.みつかった	74
2.どちらかと言えばみつかった	60
3.どちらでもない	4
4.どちらかと言えばみつからなかった	0
5.みつからなかった	0



Q.あなたはご自分の「基礎力」を1年後にどのくらい高めることができるかについて関心がありますか？

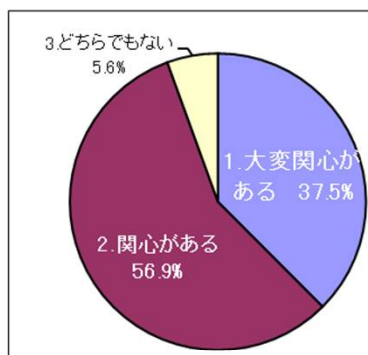
1.大変関心がある	50
2.関心がある	80
3.どちらでもない	13
4.あまり関心がない	1
5.関心がない	0



Q.あなたはご自分の「基礎力」を1年後にどのくらい高めることができるかについて関心がありますか？

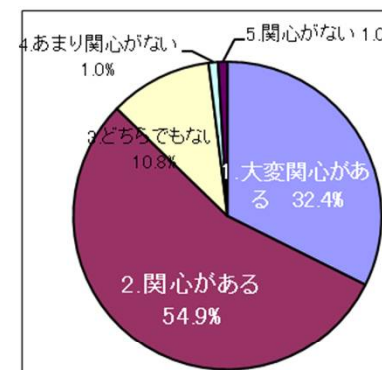
経済学科1年

1.大変関心がある	27
2.関心がある	41
3.どちらでもない	4
4.あまり関心がない	0
5.関心がない	0



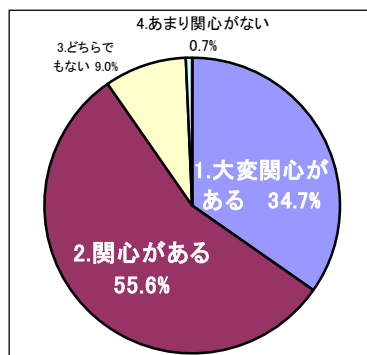
公共政策学科+情報メディア学科1年

1.大変関心がある	33
2.関心がある	56
3.どちらでもない	11
4.あまり関心がない	1
5.関心がない	1



スポーツ経営学科1年生

1.大変関心がある	50
2.関心がある	80
3.どちらでもない	13
4.あまり関心がない	1
5.関心がない	0



ほとんどの学生が**自己の強みに気づき、自信を持ち（自己効力感を高め）、**
「今後もっと成長したい」とやる気の火
がついた

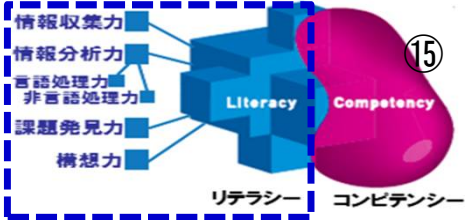


PROG

PROGRESS REPORT ON
GENERIC SKILLS

Part.1
学年・学部別集計

リテラシー総合 判定レベルに見る全体傾向



DL資料では削除させていただきます。

※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差 (SE) × 2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

コンピテンシー総合 判定レベルに見る全体傾向



DL資料では削除させていただきます。

※平均グラフの先端のH状の横線は、スコア±標準誤差 (SE) × 2を表す。
※基準集団のグラフの色は、すべて同じ色に設定しています。

コンピテンシー中分類要素 判定レベルに見る全体傾向 ③



⑬

DL資料では削除させていただきます。

※各尺度の傾向に対するコメントは、以下の記述ルールによる。

- 1) 標準誤差の下限が基準集団を上回る場合→「高い」
- 2) 標準誤差の上限が基準集団を下回る場合→「低い」
- 3) 基準集団よりも大きい、標準誤差の範囲内にある場合→「上回る傾向」
- 4) 基準集団よりも小さい、標準誤差の範囲内にある場合→「下回る傾向」

自己点検・評価活動等の実施体制を確立し、内部質保証に取り組んでいる。教育の質を保証している

今回の基準6「内部質保証」の評価

「岐阜協立大学の内部質保証の方針」「内部質保証の組織図」を定め、「自己評価委員会」で評価計画の策定と取りまとめを実施した上で、結果を大学ホームページに掲載し、学内外に周知している。「自己評価委員会」には各課課長も参加し、自己点検・評価の結果は、翌年度の予算審議及び事業計画に反映され、責任体制が担保されている。「自己点検評価書・エビデンス集」を取りまとめ、エビデンスに基づく自己点検・評価を実施しているほか、地元の企業・高等学校とともに「教育研究推進懇談会議」を開催し、外部の多様な意見を聴取した上、内部質保証を推進している。「IR 推進委員会規程」を定め、職員にIR(Institutional Research)専門職資格の取得を促した上、学内の種々の情報を数値化・可視化して分析し、大学経営に活用している。中期計画に記載した項目については、「岐阜協立大学 PDCA シート」を使用して PDCA サイクルを実効的に回すよう努めている。

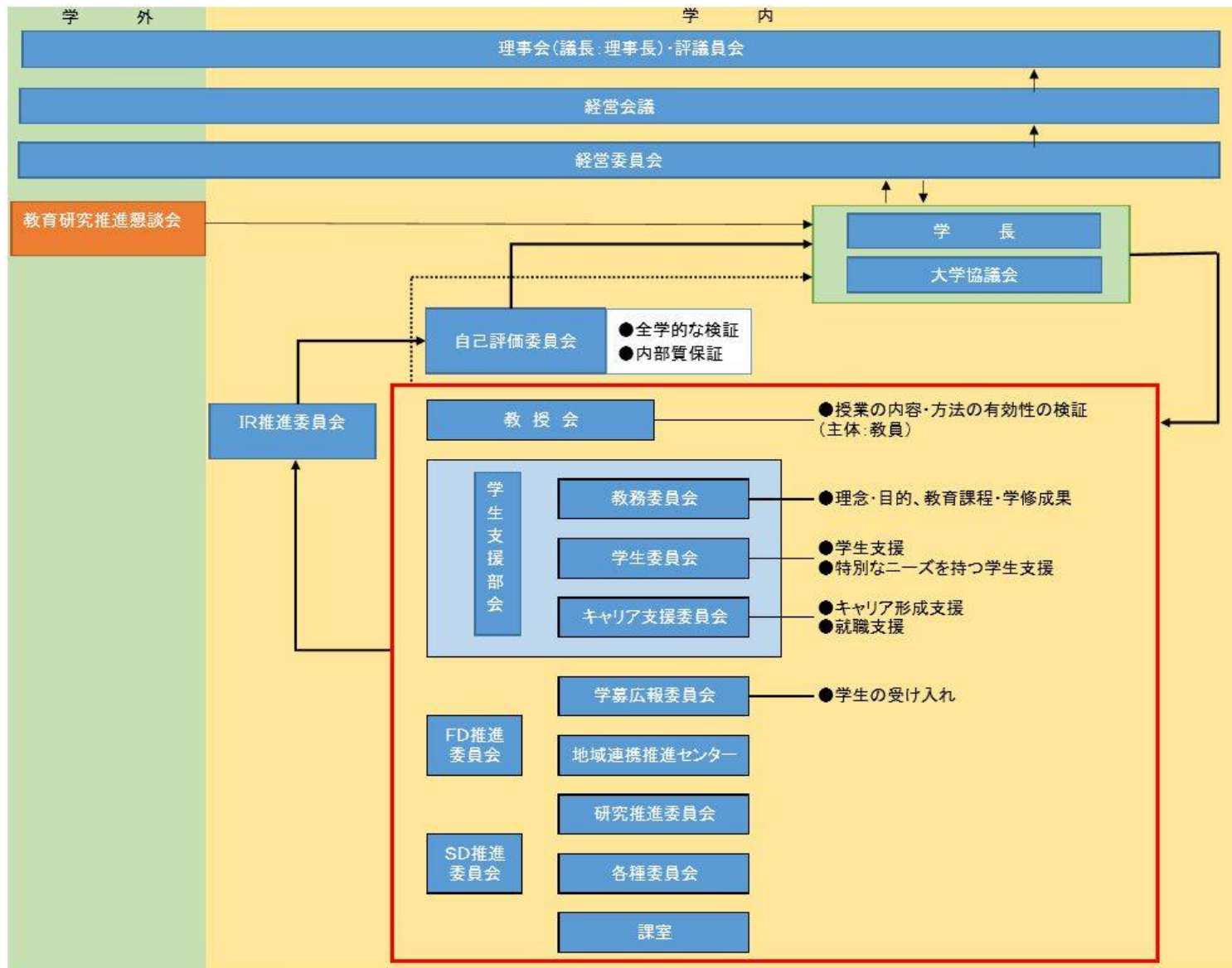
〈優れた点〉

○IR 機能の充実のため、職員に「IRer(IR 専門職資格)」の取得を促し、資格取得させた点は評価できる。

○「**教育研究推進懇談会議**」を開催し、地元の企業や高等学校の関係者等の多様な意見を聞きとり工夫するなど、内部質保証の推進のための自主的・積極的な取組みを行っている点は評価できる。

総じて、大学は「地域に有為の人材を養成する」との教育目的のもとで、明確で具体的な三つのポリシーに基づき運営されている。教学・法人両面で適切にガバナンスが機能し、法人合併・学部新設に当たっても、スムーズな意思決定が行われている。また、自己点検・評価の結果を活用し、内部質保証の推進のため、**中期計画を礎とした積極的な取組み**が行われ、達成のための責任体制が構築されている。

岐阜協立大学 内部質保証の関係図



2020（令和2）年度 教育研究推進懇談会議

1. 日時 令和2（2020）年10月20日（火）16時～17時
2. 会場 岐阜協立大学 第8会議室（2号館3階）

No	所属	職名	氏名
1	大垣市企画部人事課	課長	〇〇 〇
2	大垣商工会議所 中小企業経営指導相談所	相談課長兼振興課長	〇〇 〇〇
3	大垣共立銀行	執行役員法人営業部長	〇〇 〇〇
4	大垣西濃信用金庫人事部	部長	〇〇 〇〇
5	西濃運輸株式会社人事部人事課	主幹	〇〇 〇〇
6	株式会社デリカスイト総務部		〇〇 〇
7	岐阜県立大垣東高等学校	校長	〇〇 〇

主な意見：求められる能力について

- ▶ リテラシーは大学4年間のカリキュラムの中で育成できるのではないか。就職にあたっては、目的意識を持つことが大切である。最近の若者は、未知の方とのコミュニケーションを苦手としている。社会に出れば、新しい人間関係に適応するコミュニケーション力が問われる。その意味でインターンシップ等の学外へ出る機会の拡大が必要ではないか。
- ▶ 金融では、顧客の悩みをヒアリングして聞き取る能力とその解決策を提案する力の双方が必要である。そのためには、挨拶も含めコミュニケーション能力を高めることと、日頃から本や新聞等を読み、知識をインプットし、文章化する力を身に着けることの双方が大切である。
- ▶ 社会では、主体性が大切であり、それを高めるには、責任をもって役割を果たす経験が重要である。今回のテスト結果でスポーツ経営学科の学生が、感情制御力、自信創出力のような主体性に結ぶつく力が高いのは、スポーツを通じて役割を果たしたり、主将等の人を統率する経験が役立っているのではないか。

主な意見：能力評価と育成について

- ▶ 新卒者の中には、社会人基礎力(課題発見力、創造力、柔軟性、状況把握力、ストレスコントロール)が必要なことを認識していない者もいる。このテストでこれらが必要だということを早いうちに学生が知ることは有意義である。
- ▶ これらの能力を大学で伸ばす方策としてどのようなことを考えているのか教えてほしい。

【大学の回答】

- ▶ 今回のテスト結果は、入学時点での力を図っており、本学の教育の成果がわかるよう、3年時にもう一度テストを実施し、教育の成果を測る予定である。
- ▶ 学生の能力を伸ばす方策として、リテラシーに関しては、どの力をどの科目で育てるかを明確化するリテラシーマップの導入を検討している。国家試験のある看護学部では既に明確になっており、経済・経営学部でも学部・学科の中でどう育て、どの科目ではどういう力を養うのかについて、役割分担をしっかりと組織立って力をつけていくことを追求していく。
- ▶ コンピテンシーについては、チームビルディング的なものを考えている。委員の意見にもあったように、インターシップ等を高めていきたい。スポーツ経営学科では全国レベルで活躍したスポーツ経歴を有する学生が多く、コンピテンシーも高い。彼らとそれ以外の学生が交流する機会を設けながら、全体を引き上げていきたい。

【高校の意見】

- ▶ このテストから得られる情報は、SPDCAサイクルのS(サーチ)としても活かせるのではないかと。
- ▶ 現在、小中高の学習指導要領改訂の時期であり、「いかに正しく覚えているか」から「いかに知識を生かすか」にシフトしている。ただ、知識を活用して課題を解決するためには、最低限の知識は必要であり、その部分をどうつけるかが高校の課題である。また、課題解決能力の育成ため「総合的な探求の時間」がスタートする。その中では、結果ではなく過程を重視する。これらを通じて高校もリテラシーの育成に貢献していきたい。

主な意見：求められる資格について

- ▶ 従来は、就職してから必要な資格を取ることが多かったが、最近は学生時代に証券外務員1種、2種の資格を有するものも多い。また、ビジネスマナーに関しても秘書検定等を取得しておくとうい。
- ▶ 自分のやりたいことを見つかったら、その企業・業界で必要な資格は取得しておくとうい。どの資格が必要かは大学もアドバイスしてほしい。さらに取得するまで結果も求めることも必要ではないか。自分のやりたいことに対し、必要な力を各学年でどのように身に着けるかを記したシート等の活用も有効である。
- ▶ 自分がなりたい職業に必要な資格を取ることが大切である。取りやすさだけで選んだ資格ではあまり意味がない。面接ではなぜこの資格を取得したかも含めたストーリーを見ている。
- ▶ なりたい仕事に活かせる資格を取得することが大切である。持っている資格を生かす職業を選ぶのではなく、なりたい職業に活かせる資格を取得することが大切である。
- ▶ 社会へ出ると環境も大きく変わり、資格取得の勉強もなかなかできないことも多い。入社したい企業が見つかったら、どの資格が必要かを調べ、取れる資格を取得しておくとうい。どの資格が必要かは大学もアドバイスすべきである。

大学基礎データ

IR

認証評価エビデンス集

事業報告書

IR委員会

課名	No	データ項目	備考
企画広報課	1-1	18歳人口の推移	18歳人口と進学率等の推移
	1-2	岐阜県内高校卒業者の流出状況	
	1-3	岐阜県内高校卒業者の流入状況	
	1-4	本学の志願者・合格者・入学者の推移	
	1-5	岐阜県内大学の入学者数推移	
	1-6	岐阜県内大学の在籍者数推移	
	1-7	岐阜県内大学の卒業生数推移	
財務課	2-1	経費指標	資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表
	2-2	学費減免者数、減免額	入試種別、減免額、減免者比率、学生一人当たりの減免の平均額
	2-3	学費延納手続者数	
入試広報課	3-1	志願者・受験者・合格者	入試種別・男女別・県別・留学生(大学院・留学生別科・転編入学)
	3-2	県別志願者・合格者・入学者数	
	3-3	入学辞退理由	入学辞退の理由(どこの大学へ入学するのか)
	3-4	オープンキャンパス	参加者数、県別、男女別、参加者の志願者数、入学者数
	3-5	県別オープンキャンパス参加者	
学生課	4-1	クラブ加入率	体育会・文化会別、強化準強化クラブ・一般クラブ別
	4-2	奨学金受給者	日本学生支援機構、本学独自奨学金、学生一人当たりの奨学金の平均額
	4-3	学費減免の再審査	更新率(2年目以降の継続者)
	4-4	下宿率	男女別
	4-5	留学生	出身国別、男女別、現住所別
	4-6	学生相談室・学生支援室	利用者数
キャリア支援課	5-1	就職状況	就職率(希望者ベース、卒業生ベース)、男女別、本社所在地別(できれば勤務予定地別)、Uターン就職率、岐阜県・全国との比較、主な就職先(男女別)、業種・県別就職者、金融・公務員(教員を含む)・上場企業就職者数
	5-2	求人	企業・団体の未着者数、企業・団体訪問数
	5-3	学生相談	相談者数
	5-4	アルバイト	経歴者数、アルバイトの職種
	5-5	強化準強化指定クラブ	就職率、就職先
	5-6	企業人育成課程	大学推薦者、就職率、就職先
	5-7	インターシップ者数	実習先、実習期間
	5-8	就職先	入学者、卒業生、学生数(5/1)
教務課	6-1	学籍	入学、退学、卒業生
	6-2	履修・退学・卒業生	退学、除籍者数(理由別)、学年別等のクロス集計、4年次卒業率、社会福祉課程
	6-3	社会福祉課程	履修者・受験者・合格者
	6-4	教職課程	履修者・教育実習者・受験者・合格者、常勤講師・非常勤講師
図書館	7-1	蔵書数	
	7-2	利用者	学生(個人・学科別・ゼミ別)、教員、学外者、学生1名あたりの貸し出し冊数
IR委員会		アセスメントテスト(ベネッセ)	基礎学力、学習意欲の全国との比較、本学の特長

【共通基礎】	認証評価共通基礎データ	総務課・入試広報課
【表F-1】	理事長名、学長名等	総務課
【表F-2】	附属校及び併設校、附属機関の概要	総務課
【表F-3】	外部評価の実施概要	総務課・企画広報課
【表2-1】	学部、学科別在籍者数(過去5年間)	教務課
【表2-2】	研究科、専攻別在籍者数(過去5年間)	教務課
【表2-3】	学部、学科別退学者及び留学者数の推移(過去3年間)	教務課
【表2-4】	就職相談室等の状況	キャリア支援課
【表2-5】	就職の状況(過去3年間)	キャリア支援課
【表2-6】	卒業後の進路先の状況(前年度実績)	キャリア支援課
【表2-7】	大学独自の奨学金給付・貸与状況(授業料免除制度)	学生課
【表2-8】	学生の課外活動への支援状況(前年度実績)	学生課
【表2-9】	学生相談室、保健室等の状況	学生課
【表2-10】	附属施設の概要(図書館除く)	総務課
【表2-11】	図書館の閉館状況	図書館
【表2-12】	情報センター等の状況	教務課
【表3-1】	授業科目の概要	教務課
【表3-2】	成績評価基準	教務課
【表3-3】	修得単位状況(前年度実績)	教務課
【表3-4】	年間履修登録単位数の上限と進級、卒業(修了)要件	教務課
【表4-1】	学部、学科の開設授業科目における専修比率	総務課 教務課
【表4-2】	職員数と職員構成(正職員・嘱託・パート・派遣別)	総務課
【表5-1】	財務情報の公表(前年度実績)	財務課
【表5-2】	消費収支計算書関係比率(法人全体のもの)	財務課
【表5-3】	事業活動収支計算書関係比率(法人全体のもの)	財務課
【表5-4】	消費収支計算書関係比率(大学単独)	財務課
【表5-5】	事業活動収支計算書関係比率(大学単独)	財務課
【表5-6】	貸借対照表関係比率(法人全体のもの)	財務課
【表5-7】	貸借対照表関係比率(法人全体のもの)	財務課
【表5-8】	要項立額に対する金融資産の状況(法人全体のもの)	財務課

項目	内容
I 教育改革	1. 全学共通教育計画 (1)基礎学力支援 (2)初年次教育の強化 (3)キャリア形成教育の強化
(4)中途退学者の減少	
2. 経済学部の教育計画	
3. 経営学部の教育計画	
4. 看護学部の教育計画	
5. 大学院の教育計画	
6. 留学生別科の教育計画	
7. 中長期の教育環境整備計画の策定	
(1)施設整備計画 (2)設備計画	
8. 教員個人研究及び協同研究の推進	
9. 教員の外部研究資金獲得の推進	
II 学生生活の充実	
1. 学生への学習支援	(1)教育課程の体系化 (2)公務員試験支援 (3)就職支援 (4)社会福祉士支援
2. 学生への生活支援	(1)課外活動支援 (2)学生の生活支援 (3)特別なニーズを持つ学生支援
(4)留学生支援 (5)国際交流支援 (6)図書館利用の活性化	
3. 学生へのキャリア支援	
III 地域への貢献と連携	
1. 地域連携の推進	
2. 高大連携の推進	
3. 大学間連携の推進	
4. 産官学連携の推進	
IV 教育組織・マネジメント	
1. 学長がリーダーシップを発揮しう5体制の充実	
2. F D活動の推進	
3. S D活動の推進	
4. I R活動の推進	
5. 自己点検・自己評価の実行	
6. 危機管理・防災対策	(1)危機管理規程・基本マニュアルの整備 (2)ハラスメント防止・対策 (3)情報セキュリティ対策 (4)衛生管理 (5)災害時の対応 (6)情報収集・発信 (7)防災設備・備用品
7. 関係団体との連携	
V 戦略的経営	
1. 大学広報活動	
2. 学生募集広報活動	
3. 私立大学等種々補助金の獲得	
4. 私立大学等種々強化支援事業の獲得	
5. 組織・業務	
6. 教職員管理	
7. 雇用条件	
8. 財政	

岐阜協立大学 中期計画（2018-2022）事業PDCAシート

事業名	初年次教育の強化		
担当委員会	教法研委員会	見合の学年充期位	
事業責任者	教法研委員長	担当事務	教法研
中期計画番号	項目番号（1-1-②）		

年度	2017年度 (過去)	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
目標数値						
実績/計画値						
当初予算額（千円）						
実績額（千円）						

1. 事業計画（PLAN）					
（事業の目的）					
【到達目標】（1）少人数教育を充実させる。到達目標：授業単元の「演習」科目のクラス当たりの受講数を、現状より5%増とする。 （2）ブレインメントテストの授業を改善する。 （3）レポート・小テストを改善する。到達目標：全授業平均でのレポート・小テストの回数を1回以上とする。 （4）オフィスアワーを強化する。到達目標：オフィスアワー利用率を授業ごとに集計し、全授業で平均1回以上とする。 （5）ラーニング・サポート担当者を配置する。 （6）入学前教育を充実させる。到達目標：入学前時にプレシミュレーション向け企業を実施する。					
（年次別事業計画の概要）					
2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
（実行プラン） ①少人数クラス実施に向けた授業担当体制を検討する（1） （達成評価）A：達成できなかった、B：ほぼ達成できなかった、C：やや不十分、D：不十分	（実行プラン） ①小テストの実施方法のノウハウを調査する（10） ②ブレインメントテストの授業改善と共同実施（5） ③オフィスアワー利用率の集計を実施する（20） （達成評価）A：達成できなかった、B：ほぼ達成できなかった、C：やや不十分、D：不十分	（実行プラン） ①ブレインメントテスト授業を年次授業システムより実施可能とする（2） ②小テストの実施方法のモデルプランを策定する（3） （達成評価）A：達成できなかった、B：ほぼ達成できなかった、C：やや不十分、D：不十分	（実行プラン） ①入学前にプレシミュレーション向け企業を招待する（5） ②ラーニング・サポート担当者を配置する（5） （達成評価）A：達成できなかった、B：ほぼ達成できなかった、C：やや不十分、D：不十分	（実行プラン） ①ラーニング・サポート担当者を配置し及びプレシミュレーション向け企業を招待する（5） ②「基礎演習」の授業評価を実施する（1）～（6） （達成評価）A：達成できなかった、B：ほぼ達成できなかった、C：やや不十分、D：不十分	

2. 事業実績（DO）					
2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
①少人数クラス実施に向けた授業担当体制を検討する（1） ②ブレインメントテストの授業改善と共同実施（5） ③オフィスアワー利用率の集計を実施する（20） ④入学前にプレシミュレーション向け企業を実施する（5） ⑤ラーニング・サポート担当者を配置する（5） ⑥「基礎演習」の授業評価を実施する（1）～（6）	①小テストのノウハウの調査については、授業改善委員会が、全授業の小テストの実施方法について、授業改善委員会に依頼し、取組であった事例については、office研修にて共有している。 ②オフィスアワー利用率の集計は12月に実施する予定である。	①当初は入学前教育でブレインメントテストを実施する予定であったが、少人数の授業で小テスト（学生ポータルサイトの検索を判断）に定めた。年次授業システムへの掲載は告知されていない。 ②コロナ禍での遠隔授業による10回 Test-Formによる小テストの普及を図った。			

3. 自己評価（CHECK）				
2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
<input type="checkbox"/> 計画以上の成果者 <input type="checkbox"/> 計画通り <input type="checkbox"/> 改善を要する <input type="checkbox"/> 根本的な見直しが必要	<input type="checkbox"/> 計画以上の成果者 <input type="checkbox"/> 計画通り <input type="checkbox"/> 改善を要する <input type="checkbox"/> 根本的な見直しが必要	<input type="checkbox"/> 計画以上の成果者 <input type="checkbox"/> 計画通り <input type="checkbox"/> 改善を要する <input type="checkbox"/> 根本的な見直しが必要	<input type="checkbox"/> 計画以上の成果者 <input type="checkbox"/> 計画通り <input type="checkbox"/> 改善を要する <input type="checkbox"/> 根本的な見直しが必要	<input type="checkbox"/> 計画以上の成果者 <input type="checkbox"/> 計画通り <input type="checkbox"/> 改善を要する <input type="checkbox"/> 根本的な見直しが必要
①計画以上の成果者であるが、授業単元の「演習」科目のクラス当たりの受講数は、授業単元に比べて多い。 ②一般教養科目においては、時間削減のため、特定の科目に受講者が集中しないよう工夫した結果があったと見られるが、一部の科目では受講者が集中（集約）がみられた。				

4. 次年度事業計画に向けた改善方案（ACT）				
2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
<input type="checkbox"/> 尤も <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 中止 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 尤も <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 中止 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 尤も <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 中止 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 尤も <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 中止 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 尤も <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 中止 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し <input type="checkbox"/> 改善
①改善を要するが、計画通りである。	①小テストの実施方法のノウハウの調査は、事例の提供がしなかったことにより工夫が、今後にも改善を要する。	②「基礎演習」の授業評価は、その評価についても年次授業に反映させる。	③ Test-Form/One Sheetの利用を基礎演習等の初年次教育に導入し、全体を電子ポートフォリオとしてまとめるべく改善する。このためにITセンターとの連携、研修会での電子ポートフォリオの準備を進めていく。	

5. 事業評価（5事業継続・4事業充実・3事業改善・2事業統合又は縮小・1事業廃止または終期設定）				
2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
継続				
4				
平均	平均	平均	平均	平均

岐阜県立大学 中期計画（2018-2022）事業PDCAシート

事業名	PAC支援		
担当委員会	教務委員会/PAC連絡会	見合の出席機関	
事業責任者	教務部長	担当事務系	教務課
中期計画番号	項目番号（目-1）(2)		

年度	2017年度 (過去)	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
目標数値		9	9	9	9	9
実績/到達度	0	11	24	11		
当初予算額(千円)	5,872	5,452	5,152	5,282		
実績額(千円)	4,399	4,742	4,031	3,840		

1. 事業計画 (PLAN)

(事業の目的)

(到達目標)

(1) 関係科目の検討、(2) 授業形態の実施、(3) 情報・指導体制の整備、(4) 公認資格取得の充実、
到達目標：(1)～(4)の取組みにより、公認資格取得合格者（修正履修用、公立年次の数値を除く）を5年平均で60以上増加することを目標とする。

(年次別事業計画の概要)

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
<p>(実行プラン)</p> <p>①年内履修形態の実施、時差授業の分析と学生からの聞き取り調査を行う。(2) ②2018年度、2019年度の分科実履の進捗と分析を行う。(3) (達成評価) A：達成であった、B：ほぼ達成であった、C：やや不十分、D：不十分</p>	<p>(実行プラン)</p> <p>①履修形態の分析調査等を踏まえた関係科目の検討を行う。(1) ②2018年度、2019年度の分科実履の進捗と分析を行う。(3) (達成評価) A：達成であった、B：ほぼ達成であった、C：やや不十分、D：不十分</p>	<p>(実行プラン)</p> <p>①前年度までの検討、分析調査を加えた関係科目の充実を行う。(1) ②前年度までの検討、分析調査を加えた個人情報・指導体制の実施と分析を行う。(3) (達成評価) A：達成であった、B：ほぼ達成であった、C：やや不十分、D：不十分</p>	<p>(実行プラン)</p> <p>①各種実業に伴う外転履修(公認資格取得)に関する指導内容、年次単位の連携・関係科目等の調査を行う。(4) ②前年度の検討結果、必要の取組をたてながら、個人情報・指導体制の充実を行う。(3) (達成評価) A：達成であった、B：ほぼ達成であった、C：やや不十分、D：不十分</p>	<p>(実行プラン)</p> <p>①5か年の合格実績の進捗と分析を行う。(3) ②内転履修、外転履修、個人情報、三分野の連携と次年度以降の中長期計画の立案を行う。(3) (達成評価) A：達成であった、B：ほぼ達成であった、C：やや不十分、D：不十分</p>

2. 事業実績 (DO)

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
<p>①科際連携、年内履修形態と学生からの聞き取り調査を実施することができた。 ②PAC支援活動の進捗が定まっていたため、実施ができた。</p>	<p>①履修形態の分析調査等を踏まえた関係科目の検討を行った。その結果、教務院の分野の強化を図ることとした。 ②2018年度、2019年度の分科実履の進捗と分析を行った。</p>	<p>①授業形態分析の科目「PAC教養入門」を新設開講し、基礎から丁寧に指導することができた。 ②2018年度に予定されていたPAC実履の進捗が定まっていたため、検討ができた。</p>		

3. 自己評価 (CHECK)

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
<p>□計画以上の成果者 □計画通り □改善を要する □根本的な見直しが必要</p>	<p>□計画以上の成果者 □計画通り □改善を要する □根本的な見直しが必要</p>	<p>□計画以上の成果者 □計画通り □改善を要する □根本的な見直しが必要</p>	<p>□計画以上の成果者 □計画通り □改善を要する □根本的な見直しが必要</p>	<p>□計画以上の成果者 □計画通り □改善を要する □根本的な見直しが必要</p>

4. 次年度事業計画に向けた改善方針 (ACT)

2019年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
<p>□充実 □改善 □廃止 □統合 □縮小 □新設設定 □変更実施</p>	<p>□充実 □改善 □廃止 □統合 □縮小 □新設設定 □変更実施</p>	<p>□充実 □改善 □廃止 □統合 □縮小 □新設設定 □変更実施</p>	<p>□充実 □改善 □廃止 □統合 □縮小 □新設設定 □変更実施</p>	<p>□充実 □改善 □廃止 □統合 □縮小 □新設設定 □変更実施</p>

5. 事業評価 (5事業組織、4事業充実、3事業改善、2事業統合又は縮小、1事業廃止または長期決定)

2019年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
<p>総務会</p> <p>3</p>				
<p>平均</p>	<p>平均</p>	<p>平均</p>	<p>平均</p>	<p>平均</p>

ご視聴ありがとうございました



岐阜協立大学
GIFU KYORITSU UNIVERSITY